

世界遺産一覧表記載資産の保全状況の概要について
(この一年間に保全状況に関連して大きな動きのあったもの)

令和2年8月3日
文 化 庁

【法隆寺地域の仏教建造物】

- ・ 門前地区(緩衝地帯内)において、景観に配慮し発掘調査を行ったうえで民間宿泊施設が建設され、令和元年9月に開業した。
- ・ 奈良県及び斑鳩町による連携会議の設置について協議中。

【姫路城】

- ・ 平成14年(2002)に設置された防災施設について、令和4年(2022)度を目途に更新整備中。
- ・ 平成23年(2011)3月に策定した特別史跡姫路城跡整備基本計画について、令和2年度の改定を目指して見直し中。

【古都京都の文化財(京都市、宇治市、大津市)】

- ・ 賀茂別雷神社において、社務所横の駐車場に来訪者向けの休憩施設を設置したり、神社西側の市道を拡幅したりするなど、整備に向けた手続きが進められている。
- ・ 延暦寺の建造物について、約60年ぶりの大規模修理が行われており、拝観者が修理現場を見学するための舞台等が設置されている。
- ・ 平成30年台風21号による被害の復旧作業が、複数の構成資産で進められている。
- ・ 仁和寺の緩衝地帯において宿泊施設の建設計画がある。地元協議会とは対話を重ね一定の合意が得られているものの、別団体から市議会に対して計画反対の請願書が提出された。
- ・ 二条城において、本丸御殿の耐震補強工事を実施している。また、茶会の再現や弓馬術を通じて武家の礼法を学ぶための歴史体感プログラムを実施し

ている。

- ・ 令和2年度末を目途に、包括的保存管理計画を策定する予定。
- ・ 令和元年12月に、持続可能な文化観光を推進させるため、世界文化遺産活性化シンポジウムを開催した。

【白川郷・五箇山の合掌造り集落】

- ・ 令和元年5月に茅葺きの国際フォーラムを受け入れ、屋根葺きワークショップを実施した。
- ・ 平成28年度に相倉集落に茅保管庫を新設、令和元年6月には上平地域にも保管庫を整備し、屋根葺き材料である小茅の増産に向けた環境を整えている。
- ・ 白川郷において、令和元年11月に資産近傍で茅葺き建物の火災が発生した。
- ・ 平成24年度に続き、令和2年度にも相倉集落の市有家屋への移住者募集を行う予定。
- ・ 史跡相倉集落及び菅沼集落の保存活用計画の改定を完了した。また、令和2年度には史跡指定50周年及び世界遺産登録25周年の記念事業を実施する予定。

【原爆ドーム】

- ・ 原爆ドーム及び平和記念公園周辺の眺望景観を保全・形成する具体的方策について、広島市景観審議会に諮問し検討を進めている。

【巖島神社】

- ・ 資産内において市民センターの建替え中でトイレの設置が完了した。また、世界遺産ビジターセンターの建設についても検討されている。
- ・ 土地の掘削、樹木の植栽又は伐採など、無断現状変更が確認された。
- ・ 過度の観光に対しては、入島・入山の制限が考えられる。
- ・ 大鳥居の破損調査を実施中。調査結果に基づき、修理計画を策定する予定。

【古都奈良の文化財】

- ・ 平城宮跡における国営公園整備事業について、第一次大極殿院の南門復原整

備工事が進められている。令和4年春に完成予定であり、その後回廊等の復原が予定されている。

- ・ 平城宮跡南側の県営公園区域（緩衝地帯）において、普及啓発促進のための歴史体験学習館の整備が計画されており、そのためのHIAが実施される予定。
- ・ 奈良公園（緩衝地帯）の吉城園周辺地区及び高畑町裁判所跡地の二地区において、宿泊施設を伴う整備事業が進められている。
- ・ 令和2年度にHIAマニュアルの策定に着手する予定。

【日光の社寺】

- ・ 平成28年度より、国土交通省日光砂防事務所が、資産となる建造物等への被害防止のため「山内地区砂防堰堤群整備事業」として大猷院沢・竜光院沢の堰堤・床固め整備等を実施している。なお、整備にあたっては事前に有識者を交えた検討会議を行い、史跡及び景観に対する影響を最小限に留めている。

【琉球王国のグスク及び関連遺産群】

- ・ 令和元年6月、座喜味城跡において大雨の影響による地すべりが発生した。
- ・ 令和元年10月、首里城跡で大規模な火災が発生した。
- ・ 座喜味城跡について、史跡の保存活用計画が令和2年3月に策定された。
- ・ 中城城跡の南西にあったホテル跡について、所有者との合意に至り撤去工事を実施中。
- ・ 令和2年には世界遺産登録20周年記念式典等を計画している他、世界遺産連携協議会による世界遺産サミットを10月に開催する予定。

【紀伊山地の霊場と参詣道】

- ・ 夏季の大雨又は台風により参詣道の崩落や倒木等が発生し、復旧作業を実施した。
- ・ 令和元年9月、緩衝地帯に所在する八鬼山荒神堂の寺堂が地域住民によって解体修理され、落成した。
- ・ HIA マニュアルを策定中。

【石見銀山遺跡とその文化的景観】

- ・ 令和元年8月から9月の豪雨により、清水谷製錬所跡石垣の一部が崩落した。
- ・ HIAの指針策定に向け体制を整えている。

【平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群】

- ・ 観自在王院跡について、整備計画の策定に向けた検討が始まった。
- ・ 令和元年の台風19号により、無量光院跡で土塁保護盛土の崩落があったほか、中尊寺境内で倒木があった。
- ・ 中尊寺金色堂について、環境調査の結果を踏まえた補修計画を検討しており、令和2年度中に策定予定。
- ・ 緩衝地帯にて計画されている「平泉の文化遺産」ガイダンス施設建設について、HIAの結果を踏まえ建設に着手した。
- ・ 中尊寺大池伽藍跡及び無量光院跡の発掘調査・修復の計画書に対し、ユネスコ世界遺産センターから追加報告を要請され、情報提供を行った。
- ・ HIAの実施基準について整理を行ったほか、拡張登録に向けた国際会議を開催するなど検討を進めた。

【富士山－信仰の対象と芸術の源泉】

- ・ 第43回世界遺産委員会において保全状況が審査され、令和2年12月に再度進捗状況をユネスコ世界遺産センターへ報告することとなった。
- ・ 山梨県において富士山登山鉄道に係る構想の検討が進められている。
- ・ 静岡県内の緩衝地帯において送電設備建替工事(令和4年度着工予定、令和9年度末竣工予定)が計画されており、HIAを実施中。
- ・ HIAの実施基準について検討が行われた。

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

- ・ 高山社跡の緩衝地帯において、駐車場からのアクセスルート上の人道橋仮橋を本橋へ架け替える工事が行われ、令和元年度に完成
- ・ 富岡製糸場西置繭所の保存修理及び整備活用事業が令和元～2年度で終了

予定。

- ・ 藤岡市において、太陽光発電設備設置事業指導要綱を令和元年9月に施行。令和2年度に条例を制定する予定。
- ・ 群馬県立世界遺産センターが完成し、令和2年3月末に開館した。
- ・ 田島弥平旧宅の緩衝地帯内における養蚕農家群について、保存に向けた取組が進んでいる。令和元年度は一部の所有者が登録有形文化財に向けた準備を開始した。
- ・ HIA マニュアルの策定に向けた検討を進めており、令和2年度に策定予定。

【明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業】

- ・ 平成30年の第42回世界遺産委員会において決議された更なる勧告に対応するため、内閣官房と関係自治体が連携して検討を進め、令和元年11月に保全状況報告書がユネスコ世界遺産センターへ提出された。
- ・ 寺山炭窯跡において、令和元年夏季の豪雨により大規模な崩落が発生した。

【国立西洋美術館】

- ・ 平成30年の第42回世界遺産委員会の決議において、複数国にまたがる一連の構成資産が形成する顕著な普遍的価値への影響を考慮した遺産影響評価の実施等が求められ、課題への取組状況等について、令和2年12月までに、ユネスコ世界遺産センターへ提出することとなっている。
- ・ 緩衝地帯内のJR上野駅公園口前におけるJR東日本、東京都、台東区の3者による駅舎及び駅前空間整備事業が進行中である。顕著な普遍的価値に対して負の影響を与えることがないように、文化庁、国立西洋美術館とも情報共有し、事業主体の3者間で協議しながら引き続き工事が進められる。

【「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群】

- ・ 平成30年7月豪雨により、新原・奴山古墳群の13号墳及び30号墳の一部法面等の崩落が発生し、復旧事業を実施している。
- ・ 登録時の世界遺産委員会決議への対応に向けて、古代東アジアにおける航海や交流、祭祀等に係る国際検討会を実施した。

- ・ 鐘崎漁港整備事業について HIA を実施し、令和元年 8 月にユネスコ世界遺産センターへ報告した。
- ・ 宗像大社辺津宮斎館の建替えに伴い既存建物が除却され、建替え範囲の確認調査が行われた。
- ・ 令和元年 10 月より、団体や企業による遺産群の保全および価値発信に係る取組みについて保存活用協議会が認定・告知等を行う「守り伝える活動認定プログラム」が開始された。

【長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産】

- ・ 「平戸の聖地と集落」の安満岳麓における道路関連事業（トンネル工、法面工、フェンス整備）を令和元年度に完了。
- ・ 原城跡について、ガイダンス施設設置の計画があり HIA が行われている。
- ・ 長崎県内において、陸上風力発電及び洋上風力発電の設置計画があり、関係部局及び事業者と協議が行われている。
- ・ HIA の実施基準策定に係る検討が進められた。

【百舌鳥・古市古墳群】

- ・ 令和元年 7 月に世界遺産一覧表へ記載された。
- ・ 仁徳天皇陵古墳の西側緩衝地帯内に計画していたガイダンス施設設置計画が撤回された。新たな来訪者対応として、既存建物を使った展示解説施設などの整備や検討が進められている。
- ・ 仁徳天皇陵古墳付近におけるバルーンによる見学施設の運用計画が立ち上がっている。令和 2 年度に実証実験を行ったうえで、計画導入について検討される。
- ・ HIA の実施基準の検討及び構成資産の整備手法に係る検討が進められている。